

「教育と公共」研究部会（第33回）

日時：2022年2月4日（金）13:00～15:30

場所：オンライン（Zoom使用）

出席：田嶋一・上野正道・浅井幸子・狩野浩二・仲田康一・藤井佳世 各兼任研究員
吉久知延所長・山口和人・川上智子(野間教育研究所事務局)

内容：（1）浅井研究員：「教育における共通（common）を考える」

共通（common）という観点から考えてきた教育における公共の概念の相互の関係を考察

- ◆ホーレス・マンの「コモン・スクール」（渡部 1981）
 - ・州民に共通の費用、共通の利益、共通の価値観を形成する
- ◆フィールドィングとモスの「コモン・スクール」（Fielding and Moss 2011）
 - ・Taylor（2012）の評価
 - ・コモン・グッド（デューイ、カーとハートネット、サンデル）
 - ・共通の生活（マクマリー）
 - ・個人とコモン（デューイ、ハートとネグリ、レディングズ、リナルディ）
 - ・国・地方自治体との関係
 - ・共通の制度（グレイ）
- ◆Reconfiguring the Natures of Childhood, 2013 Affrica Taylor
 - ・人と人が共に生きるための教育から、人と人以外が共に生きるための教育への展開
- ◆カリキュラムの公共性—学習における関係性と共同性の回復（佐藤学『カリキュラムの批評』世織書房、1996年）
- ◆アレント（「人間の条件」）

（2）藤井研究員：「主体形成と承認の哲学—ホネット承認論を基礎とする人間形成論の検討」

- ◆主体性と承認：教育哲学者 K. ストヤノフの、ホネット承認論を手掛りにした人間形成論。
主体性の発展は十全な自己関係（自己信頼・事故尊重、自己評価）に支えられている
- ◆共感、尊敬、社会的価値評価と人間形成：ストヤノフが企図するのは承認に基づく主体性の拡大によって、単純な社会化とは異なるような、社会批判と連動する人間形成論の構想
- ◆ハイブリッドな自己形成—文化・承認・人間形成：自律の概念も人間形成と深く関わる。
自律とはホネットによれば、言語的分節化能力、生の語りの関連性を描く能力、道徳的コンテクストの感受性。文化と承認をめぐる人間形成上の葛藤の事例—イラン人とドイツ人の両親の娘としてイランで生まれ、10歳までイランで暮らした女子学生のナラティヴ・インタビュー。自己と世界の新しい把握のモデル

・次回研究会 3月11日（金）13:00～